

平成29年度（平成28年度事業）平取町事務事業評価調書

担当課（係） アイヌ施策推進課 アイヌ施策推進 係

（投資的事業事後評価）

○事務事業の概要

事務事業名	鶴川・沙流川流域広域交流圏域形成DMO構築連携事業 (地方創生加速化交付金)					事業年度	平成28年度			
総合計画の位置付け	編	1	章	5	節	5	単位施策	2		
事業目的・目標値	沙流川・鶴川流域には、豊かな自然、美しい景観、新鮮な農水産物、代々受け継がれてきた伝統工芸や場産地風景など様々な資源がある。しかし、道東自動車道の開通で、交通量が極端に減少し、沿線商工観光関係者は、危機に直面している。このような状況を打破すべく、平取町、むかわ町、日高町が一致協力して道央圏との交流により、文化産業等の振興を図ろうとするものである。									
事業概要	3町合計で124,182千円の予算規模となっており、観光資源の発掘やPRビデオ制作、マーケティング調査やアンテナショップの開設・運営、隆起のモニターツアーの実施、その他、各町個別事業の中で、平取町の事業は、伝統的工芸品産業の裾野を広げる為のレーザー彫刻機の購入や研修を実施する。									
事業決算額	総事業費		国庫支出金		道支出金		地方債		その他特定財源	一般財源
	66,722		66,722							0
事業費内訳	9節	98	13節	54,722	17節		18節	11,902	22節	合計 66,722

○事務事業の成果・実績等

成果・実績	対象者（誰に）	町内及び来訪者（交流人口）			ニーズの把握方法		アンケート等	
	実施に向けての意図及び実績	地域資源を把握し、地域住民に周知し参画・協働で地域資源を磨き上げ、ネットワーク化を図り、誘客観光客を受入れる環境整備と都市間での流域特産品販売のアンテナショップを運営し、情報を発信し、3町連携で実施するモニターツアー等をPRし実践・展開をした。地域資源の把握やマーケティング戦略の立案など実施できたが、豪雨災害などもあり、計画の変更等もあり、事業実施においては十分な実績が得られなかった。						
	対象者の反応	参加された方或いはこの事業に初めて携わった方には反応は良かった。						
	重要業績評価指標（KPI）	指標名	目標指標値（平成25.27年度）		平成28年度実績値			
		観光客入込数	131,561 (H25)		223,998			
		アイヌ文化振興ツアー	582 (H27)		214			
伝統的工芸家育成		17 (H27)		20				
過去の評価	年度	第1次評価点		第2次評価点		総合評価（第2次）		
	過去の評価に対する分析							
要望の有無	あり・なし	要望内容						

○評価

評価項目	内部評価	
	評価点	評価のコメント
必要性	5	北海道新幹線の開通、民族共生の象徴となる空間整備、東京オリンピック開催など、外国人観光客の増加も予想され、この機会に、多くの人々を誘客し、地域経済の発展につなげていくことは必要な事業。
効果性	3	むかわ町・日高町・平取町が一致協力して、住民との協働により、地域の自然・文化・産業の地域資源を活かしながら、交流のあり方を模索・試行しつつ、地域の振興に取り組んでいこうとすることは有効であるが、今年度実施事業では効果はみられない。
妥当性	4	鶴川・沙流川流域を一つの面としてとらえた広域観光圏を形成し、充実している博物館や資料館、道の駅、温泉施設などを活かしながら、道央圏や道外・海外からの来訪者を誘客することは妥当
有効性	4	むかわ町・日高町・平取町が一致協力して、住民との協働により、地域の自然・文化・産業の地域資源を活かしながら、交流のあり方を模索・試行しつつ、地域の振興に取り組んでいこうとすることは有効。
優先性	4	象徴空間の一般公開前に、むかわ町・日高町・平取町で一定の観光事業を優先的進めることは地域発展上で優先的に実施する必要がある。
効率性	5	むかわ町・日高町・平取町が協働で取り組む体制が整っており、効率的な運営が図られる。
圧迫性	4	維持継続するためには、広域圏の設定を急ぎ、新たな支援体制を要望することが重要。
合計	29	

今後の改善点	今回は、多くの事業を単年度で実施したことや災害などもあったことから、多くの皆さんとの議論するスケジュールは難しかった。次年度以降は今回の成果を踏まえ、十分に多くの皆さんと議論をし最終目標である、広域連携のDMOを構築めざすべき。
今後の方向性	3町の観光受け皿組織や自治体の環境は異なるものの、一つの町では限られた資源であることから、その資源の生かし方を広域の視点でバージョンアップをし、鶴川・沙流川の夫婦川が流れる地域一体で取り組み、この地域らしい観光や体験（生活・文化）、特産品開発で魅力を更に高めていく。

総合評価	拡大・ <b>継続</b> ・一部見直し・全面見直し・廃止・休止・統合
------	-------------------------------------

外部評価委員会の意見

<p>DMO構築連携事業及び鶴川・沙流川WAKUWAKU活性化事業に関しては当該事業の実施により、従来は無かった広域連携の枠組みができる流れができてきていることを評価する。</p> <p>DMO構築の検討を行なう際には各町が連携を密にし集客力の向上を図るとともに、また観光協会も議論に加えることが望ましいと考えるので、このことも検討しながら事業を進められたい。</p>
--

最終総合評価	拡大・ <b>継続</b> ・一部見直し・全面見直し・廃止・休止・統合
--------	-------------------------------------

平成29年度（平成28年度事業）平取町事務事業評価調書

担当課（係） アイヌ施策推進課 アイヌ施策推進 係

（投資的事業事後評価）

○事務事業の概要

事務事業名	鶴川・沙流川WAKUWAKU活性化事業 （地方創世推進交付金：鶴川・沙流川流域広域交流圏域形成DMO構築連携事業）					事業年度	平成28年度					
総合計画の位置付け	編	1	章	5	節	5	単位施策	2				
事業目的・目標値	沙流川・鶴川流域には、豊かな自然、美しい景観、新鮮な農水産物、代々受け継がれてきた伝統工芸や馬産地風景など様々な資源がある。しかし、道東自動車道の開通で、交通量が極端に減少し、沿線商工観光関係者は、危機に直面している。この様な状況を打破すべく平取町、日高町、むかわ町が一致協力して道央圏との交流により、文化産業等の振興を図ろうとするものである。											
事業概要	鶴川・沙流川流域の広域連携DMOの構築に向けて3町の連携を深めることを目的として、広域交流圏域の形成に向けた広報手段の整備と意識醸成を行うため、鶴川・沙流川wakuwaku協議会等の運営や観光DMOシンポジウムの開催、ホームページ開設を実施する。											
事業決算額	総事業費		国庫支出金		道支出金		地方債		その他特定財源		一般財源	
	844		417								427	
事業費内訳	13節		15節		17節		19節	844	22節		合計	844

○事務事業の成果・実績等

成果・実績	対象者（誰に）	町内及び来訪者（交流人口）			ニーズの把握方法		
	実施に向けての意図及び実績	H28年度実施した地方創生加速化交付金と同主旨で実施した事業であるが、鶴川・沙流川流域の広域連携DMOの構築に向けて広報手段を高めることを意図し実施しホームページを開設した。					
	対象者の反応						
	重要業績評価指標（KPI）	指標名	目標指標値（平成25.27年度）		平成28年度実績値		
		観光客入込数	131,561 (H25)		223,998		
		アイヌ文化振興ツアー	582 (H27)		214		
伝統的工芸家育成		17 (H27)		20			
過去の評価	年度	第1次評価点		第2次評価点		総合評価（第2次）	
	過去の評価に対する分析						
要望の有無	あり・なし	要望内容					

○評価

評価項目	内部評価	
	評価点	評価のコメント
必要性	5	北海道新幹線の開通、民族共生の象徴となる空間整備、東京オリンピック開催など、外国人観光客の増加も予想され、この機会に、多くの人々を誘客し、地域経済の発展につなげていくことは必要な事業。
効果性	3	むかわ町・日高町・平取町が一致協力して、住民との協働により、地域の自然・文化・産業の地域資源を活かしながら、交流のあり方を模索・試行しつつ、地域の振興に取り組んでいこうとすることは有効であるが、今年度実施事業では効果はみられない。
妥当性	4	日本版DMO候補法人登録ををH30年度に目指していることから広報手段の充実はや当である。
有効性	4	むかわ町・日高町・平取町が一致協力して、住民との協働により、地域の自然・文化・産業の地域資源を活かしながら、交流のあり方を模索・試行しつつ、地域の振興に取り組んでいこうとすることは有効。
優先性	4	日本版DMO候補法人登録ををH30年度に目指していることから早いうちからの広報手段の充実が優先的進める必要がある。
効率性	5	むかわ町・日高町・平取町が協働で取り組む体制が整っており、効率的な運営が図られる。
圧迫性	4	維持継続するためには、広域圏の設定を急ぎ、新たな支援体制を要望することが重要。
合計	29	
今後の改善点	今回は、多くの事業を単年度で実施したことや災害などもあったことから、多くの皆さんとの議論するスケジュールは難しかった。次年度以降は今回の成果を踏まえ、十分に多くの皆さんと議論をし最終目標である、広域連携のDMOを構築めざすべき。	
今後の方向性	3町の観光受け皿組織や自治体の環境は異なるものの、一つの町では限られた資源であることから、その資源の生かし方を広域の視点でバージョンアップをし、鶴川・沙流川の夫婦川が流れる地域一体で取り組み、この地域らしい観光や体験（生活・文化）、特産品開発で魅力を更に高めていく。	
総合評価	拡大・ <b>継続</b> 一部見直し・全面見直し・廃止・休止・統合	

外部評価委員会の意見

DMO構築連携事業及び鶴川・沙流川WAKUWAKU活性化事業に関しては当該事業の実施により、従来は無かった広域連携の枠組みができる流れができてきていることを評価する。  
DMO構築の検討を行なう際には各町が連携を密にし集客力の向上を図るとともに、また観光協会も議論に加えることが望ましいと考えるので、このことも検討しながら事業を進められたい。

最終総合評価	拡大・ <b>継続</b> 一部見直し・全面見直し・廃止・休止・統合
--------	------------------------------------